

特別企画：「千代田化工建設」グループの取引先企業実態調査

千代田化工グループ取引先、国内に 794 社

～ 仕入先の半数が中小企業、販売先は大企業目立つ ～

はじめに

経営再建中の千代田化工建設は5月9日、2019年3月期の決算発表を行った。連結売上高は前期比33.1%減の3419億円、営業損失は1997億円に拡大し、当期純損失額も前期の64億円の黒字から2149億円の巨額赤字に転落。この結果、同期末時点で591億円の債務超過に転落した。こうした厳しい決算状況を受け、筆頭株主の三菱商事および三菱UFJ銀行による合計1800億円にのぼる金融支援を柱とする財務強化策の実施も、同日明らかにした。会社側は「受注実績は計画通り、受注環境も良好」としているが、再生計画の進捗および当社グループの今後の業績次第では、多数の取引先への影響も懸念される。

帝国データバンクは、企業概要データベース「COSMOS 2」（147万社収録）の中から、千代田化工建設をはじめ、国内主要連結子会社等8社と直接取引がある取引先を抽出し、社数合計、都道府県別、業種別、年商規模別に調査・分析した。

- ◇ 調査対象は、千代田化工建設のほか、同社の2017年度・有価証券報告書に記載がある国内連結子会社等（千代田工商、千代田システムテクノロジーズ、千代田テクノエース、アロー・ビジネス・コンサルティング、アローヘッド・インターナショナル、千代田ユーテック、エムピーディーシー・ガボン）の計8社とした
- ◇ 千代田化工建設グループの複数社と取引関係がある企業については「1社」としてカウントした
- ◇ 取引の有無、売上高、所在地は最新のものとしたが、変動している可能性もある

調査結果（要旨）

1. 千代田化工建設グループ国内主要企業と取引のある国内企業（個人経営、各種法人等含む）は全国全業種合計で794社にのぼることが判明。千代田化工建設グループの仕入先・下請先が689社、同グループの販売先が123社を数えた
2. 都道府県別に見ると、「東京都」が354社（構成比44.6%）でトップ。以下、2位は「神奈川県」（101社、同12.7%）、3位は「大阪府」（69社、同8.7%）が続いた
3. 業種別に見ると、仕入先・下請先では「機械器具設置工事業」が42社（構成比6.1%）でトップ。販売先では、「医薬品製剤製造」が13社（構成比10.6%）で最も多い
4. 年商規模別に見ると、仕入先・下請先企業全体の50.2%、346社が年商10億円未満の中小企業。対して、販売先企業全体の69.1%、85社が年商100億円以上の大企業

1. 概況

千代田化工建設グループ国内主要企業と直接取引のある国内企業（個人経営、各種法人等含む）は全国全業種合計で 794 社にのぼることが判明した。

このうち、千代田化工建設グループの仕入先・下請先が 689 社、同グループの販売先が 123 社を数えた（※仕入先・下請先および販売先に重複している企業あり）。

都道府県別では、「東京都」が 354 社を数え、全体の 44.6%を占め、トップとなった。2 位は本社のある「神奈川県」の 101 社（構成比 12.7%）。3 位は「大阪府」の 69 社（同 8.7%）。以下、4 位は「千葉県」（34 社、同 4.3%）、5 位は「兵庫県」（26 社、同 3.3%）が続いた。

順位	都道府県	社数 合計	構成比 (%)	仕入先 下請先	構成比 (%)	販売先	構成比 (%)
1	東京都	354	44.6	293	42.5	70	56.9
2	神奈川県	101	12.7	95	13.8	7	5.7
3	大阪府	69	8.7	59	8.6	10	8.1
4	千葉県	34	4.3	28	4.1	8	6.5
5	兵庫県	26	3.3	23	3.3	4	3.3
6	岡山県	25	3.1	24	3.5	4	3.3
7	三重県	20	2.5	15	2.2	5	4.1
8	茨城県	17	2.1	17	2.5	0	0.0
9	富山県	16	2.0	11	1.6	5	4.1
9	山口県	16	2.0	15	2.2	1	0.8

※仕入先・下請先および販売先に重複している企業があり、社数合計とは一致しない

2. 業種別

業種別に見ると、仕入先・下請先企業では「機械器具設置工事業」が 42 社（構成比 6.1%）でトップ。以下、「他の一般機械器具卸」（40 社、同 5.8%）、「一般管工事業」（28 社、同 4.1%）、「ソフト受託開発」（25 社、同 3.6%）、「一般電気工事業」「機械設計業」（24 社、同 3.5%）の順。

販売先企業では、「医薬品製剤製造」が 13 社（構成比 10.6%）でトップ。以下、「機械器具設置工事業」（12 社、同 9.8%）、「石油精製業」（9 社、同 7.3%）、「一般電気工事業」「映画・ビデオ制作」「石油化学系製品製造」（3 社、同 2.4%）などが上位に名を連ねた。

仕入先・下請先企業

順位	業種細分類	社数	構成比 (%)
1	機械器具設置工事業	42	6.1
2	他の一般機械器具卸	40	5.8
3	一般管工事業	28	4.1
4	ソフト受託開発	25	3.6
5	一般電気工事業	24	3.5
5	機械設計業	24	3.5
7	化学機械同装置製造	22	3.2
8	産業用電気機器卸	21	3.0
8	配管冷暖房装置等卸	21	3.0
10	労働者派遣業	20	2.9

※構成比（%）は仕入先・下請先企業全体に占める割合

販売先企業

順位	業種細分類	社数	構成比 (%)
1	医薬品製剤製造	13	10.6
2	機械器具設置工事業	12	9.8
3	石油精製業	9	7.3
4	一般電気工事業	3	2.4
4	映画・ビデオ制作	3	2.4
4	石油化学系製品製造	3	2.4
7	その他の管工事業	2	1.6
7	ソフト受託開発	2	1.6
7	化学機械同装置製造	2	1.6
7	空気圧縮機等製造	2	1.6

※構成比（%）は販売先企業全体に占める割合

3. 年商規模別

年商規模別に見ると、「1 億～10 億円未満」が 293 社（構成比 36.9%）でトップ。「10 億～50 億円未満」（182 社、構成比 22.9%）がこれに続いた。

仕入先・下請先企業全体の 50.2%、346 社が年商 10 億円に満たない中小企業であることが分かった。これに対して販売先企業全体の 69.1%、85 社が年商 100 億円以上の大企業であり、このうち「1000 億円以上」（45 社、構成比 36.6%）が、販売先全体の 3 割強を占めている。

年商規模	社数 合計	構成比 (%)	仕入先 下請先	構成比 (%)	販売先	構成比 (%)
1億円未満	62	7.8	59	8.6	3	2.4
1億～10億円未満	293	36.9	287	41.7	11	8.9
10億～50億円未満	182	22.9	170	24.7	13	10.6
50億～100億円未満	65	8.2	55	8.0	11	8.9
100億～500億円未満	84	10.6	57	8.3	31	25.2
500億～1000億円未満	28	3.5	20	2.9	9	7.3
1000億円以上	80	10.1	41	6.0	45	36.6
合計	794	100.0	689	100.0	123	100.0

※仕入先・下請先および販売先に重複している企業があり、社数合計とは一致しない

4. 今後の見通し

千代田化工建設が巨額の赤字計上で債務超過に陥った主な原因は、米国で遂行中の大型液化天然ガス（LNG）プロジェクトでの工事コストの大幅増加によるものだ。会社側によれば、「想定外のコスト増が生じ、現場作業員の離職率が想定以上に高止まりする中、生産性の向上が期待できない状況も考慮し、完工までの予想コストを独自に厳しく見直し、このコストを計上した」という。今後については、5月9日の決算発表とともに公表された再生計画の着実な履行が求められるだろう。会社側が「良好」としている受注環境の中で、筆頭株主の三菱商事および三菱UFJ銀行の支援も生かし、リスク管理体制の立て直しと信頼回復が急務だ。現時点で具体的な影響が顕在化しているわけではないが、再生計画の進捗および当社グループの今後の業績次第では、多数の取引先、とくに年商 10 億円に満たない中小企業が半数を占める仕入先・下請先企業への影響が懸念される。

【 内容に関する問い合わせ先 】

（株）帝国データバンク 横浜支店 情報部

内藤 修

TEL 045-641-0380 FAX 045-641-2555

e-mail osamu.naitou@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。